

1 「さ・ぬ・き力」(非認知能力)に関する学級(35名)の実態

授業づくりの重点項目		
<p>さ力</p> <p>社交性</p> <p>共感性 協調性</p>	<p>ぬ力</p> <p>目標への情熱</p> <p>粘り強さ 忍耐力</p>	<p>き力</p> <p>自分を信じる力</p> <p>レジリエンス 自制心</p>
<p>「さ力」全般の自覚度が高い。特に、共感性に関わる「友達が困っていたら、声をかけている」「友達が失敗したときでも、その友達のことを許している」といった項目の自覚度が高い。算数科の授業では、友達の疑問や困っていることに応え、その子に分かるように工夫して伝えたり、友達が考えを整理できるように「何が分からないの」などと問いかけながら一緒に考えたりする様相が見られる。</p> <p>一方、苦手だなと感じる友達と話したり、一緒に活動したりすることに抵抗を感じている子供が7名いる。</p>	<p>「ぬ力」全般の自覚度が高い。特に、「目標への情熱」の自覚度が高く、「授業の中で、新しいことを知るのが楽しい」「新しいことに挑戦するのは好きだ」という項目の自覚が高い。算数科の授業では、分かったことやできるようになったことから、次にやってみようと思うことを見だし、その理由を伝え合いながら課題設定する姿が見られている。</p> <p>「忍耐力」の自覚度が他に比べると少し低い。自覚度が低い子供でも、苦手なことにも自分から挑戦し、あきらめずに取り組もうとする様相が見られる。</p>	<p>「自制心」の自覚度が高い。特に、「計画を立てたら、できるだけその通りに行動している」「自分で決めたことは最後までやり通している」という項目の自覚度が高い。</p> <p>「自分を信じる力」の自覚度は他と比べると低くなっている。その中でも、「自分に苦手なことや、できないことがあっても気にしない」「今の自分のことが好きだ」という項目の自覚度が低い。算数科の授業では、授業を通して分かったことを振り返った後に、「できるようになりたい」といった思いをもっている子供がたくさんいる。</p>

2 教科に関する学級の実態

- ・算数の授業で、ペアやグループで話し合っって勉強するのは好きである。(26人)
- ・算数の授業で、自分と友達の意見が違ったときに、どうしているか。(複数回答可)
 どちらが正しいか考えている。(17人)
 同じところや違うところを考えている。(19人)
 それぞれのよいところを見つけてよりよい考えにしようとしている。(13人)

3 個別支援が必要な子供の実態

A児…自分の興味のあることについては意欲的に取り組んでいる。友達と関わることに苦手意識を感じている様相が見られる。また、問題場面から立式したり、計算して答えを求めたりはできるが、考えの理由など思考の過程を説明することに苦手意識を感じている様相が見られる。



1 本単元で目指す『自ら伸び続ける子供』の姿

【詳細はこちら】

小数の乘法について、扱う数や活用する場面を拡張しながら適用範囲を広げてきた子供たちは、除法でも同じように小数の場合まで適用範囲を広げたいと考え、整数の場合の計算の意味や計算の仕方を活用して、新しい計算の仕方をつくっていく。例えば、1m当たりの代金を求める問題場面で、 $96 \div 2.4$ の計算の仕方について、整数の場合を基にして考え、「96を24等分すると、0.1m当たりの値段が分かるよ。その10倍をすると商を求められるよ」「数直線で表すと、この矢印でいいかな」「そうだね。0.1m分は4円になるから、1m分は 4×10 で求められるよ」「式で表すと、割る数だけを10倍して計算して、その商を10倍して元の大きさにしているんだね」などと、自分とは違う計算の仕方を理解しようと図や式を用いて粘り強く交流し、「他にも、割り算の性質を使う方法があるんだね」「僕が選んだ24mの値段から商を求めると似ているところがあるよ」などと、多様な考え方に気付き、共通点や相違点を考えながら小数で割る除法の計算の仕方の理解を深めていく。そして、「割られる数が小数になったら」「余りを求める場合は」などと、発展的に考えて新たな問いを見いだし、解決を繰り返すことで、除法の適用範囲を広げ、様々な問題場面で活用していく。また、このような問題解決の過程で、既習事項を生かし、筋道立てて考察することのよさを実感した子供たちは、そのような学び方を今後の問題解決に生かしていく。

2 単元計画と働きかけの概要 (本時 2/13)

㊦: 価値付け

次	学習の流れ	働きかけ	
一	<p>① (整数) ÷ (小数) はどのように計算するのか</p> <p>既習の割り算の意味や計算の仕方、成り立つ性質について振り返った後、問題場面から$96 \div 2.4$と立式できる理由を考え、数直線図を用いて計算の意味を捉える。計算の仕方への関心を高め、既習事項から三つの考え方を見いだし、そこから一つを選択し、自力解決する。</p>	<p>見通し 情【やってみタイム】②～⑬</p> <p>課題設定の理由について、既習事項と関連させて伝え合う場を設ける。㊦前時の学習内容とつないで課題解決の意欲を高めたり、既習事項とのずれから好奇心を高めたりして、課題を明らかにしている姿に共感する。</p>	
	<p>② 友達はどんな計算の仕方考えたのかな</p> <p>事前に考えた方法を交流し、多様な計算の仕方を理解する。それらの共通点を考え、既習事項を用いて解決することの大切さに気付く。</p>		<p>行動 粘【いろいろ考えタイム】②～④, ⑧</p> <p>自分の考えと同じ考えのグループで話し合った後、他の考えの人同士が集まり、それぞれの考えを説明し合う場を設定する。㊦複数の考えを理解しようと話し合ったことが、よりよい考えを見付けることにつながったことを称賛する。</p>
	<p>③④⑤⑥⑦ どんな小数になっても計算できるかな</p> <p>つくった複数の計算の仕方から、よりよい考えを選び、多様な問題場面で解決しながら、小数の除法の計算の仕方について理解を深める。③除数が純小数になった場合、④被除数と除数が共に小数になった場合、⑤扱う数値の桁数が多くなった場合(筆算)、⑥割り進む場合の筆算、⑦割り切れない場合の筆算について、計算の仕方を考える。</p>		
二	<p>⑧ 余りを求める場合の正しい答えはどれなのか</p> <p>余りを求める問題場面について、図や除法の性質など多様な方法で余りの大きさを考え、正しく余りを求められる筆算の仕方を考える。</p>	<p>振り返り 信【わたしの割り算の世界】①～⑬</p> <p>学習を通して、新しく分かったことやできるようになったこととその理由を1枚のワークシートにまとめる場を設ける。単元終末に、それを基に心に残った学習内容や自分の成長を振り返り、単元を通した成長を実感できるようにする。</p>	
	<p>⑨⑩⑪ 小数になっても割合を求められるかな</p> <p>日常とつないだ割合や数量が小数で表された様々な問題場面で、図を用いて数量関係を捉え、割合や比較量、基準量の求め方を考える。</p>		
三	<p>⑫ □はどんな計算で求められるのかな</p> <p>小数の加減や乗除の場面で、未知数を求める方法を考えることを通して、整数と同じ計算の間の関係が成り立つかを調べる。</p>	<p>㊦ワークシートに書いたことで、成長を感じている様子を称賛する。</p>	
四	<p>⑬ 小数の割り算の学習で、どんな学びや成長があったかな</p> <p>単元の学習を通して心に残った学習内容や自分の成長を振り返る。</p>		

3 本時の学習

目 標	(整数) ÷ (帯小数) の計算の仕方について、自力解決した方法を、同じ考えを選んだ友達や違う考えを選んだ友達と説明し合うことを通して、多様な計算の仕方を理解し、整数に帰着させて考えることができる。
--------	---

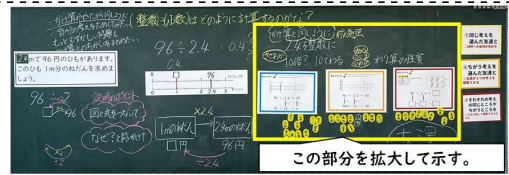
学習活動と働きかけ		主な子供の意識		
見 通 し	1 学習課題を設定する。 【やってみタイム】 【目標への情熱】	三つの考えから自分がやってみたいものを選んで、小数のわり算の計算の仕方を考えていたよ。他の考え方を選んだ友達の意見を聞きたいな。		
		自分の考えがまとまって、他の考え方を知らなかつたよ。	いろいろな考え方を比べると、もっと詳しく理解できると思ったよ。	
友達はどんな計算の仕方を考えたのかな				
行 動	2 同じ考えを選んだ者同士で相談し、理解を深める。	きちんと考えを説明できるか不安だから、同じ考えの友達と確かめよう。		
		数直線で確かめると、24で割ると0.1mの値段が分かるから、答えはその10倍になることが分かるよ。	式から計算の仕方をまとめると、割る数を10倍して考えて、1当たりを求めするために商も10倍しているのだね。	
	3 違う考えを選んだもの同士で計算の仕方を説明し合う。 【いろいろ考えタイム】 【粘り強さ】 ・グループで	まず、24で割って0.1mの値段を求めて、1m当たりの代金を求めるために10倍して考えたよ。	24mの値段は960円なので、 $960 \div 24$ をすれば、1m当たりの代金を求められるよ。	わり算の性質を使って、割られる数と割る数を10倍して考えたよ。
	・全体で	割られる数と割る数に同じ数をかけても商は同じになるから、この式でいいかな。	なぜ $960 \div 24$ をすると商を求められるの。数直線で詳しく教えてよ。	0.1mの値段を考える方法は、どうして商を10倍するの。
		4年生で習った方法を使って整数の式に直しているから簡単でいいね。	なるほど。長さを24倍すると、値段も24倍になっているからだね。	0.1mの値段は、元の値段の $\frac{1}{10}$ になっているからなのだね。
		数直線を使う考え方は、比例しているよ。	24mの値段から考える方法と、割り算の性質を使う方法は、式が同じだね。	どの方法も、計算できるように割る数を整数にして考えているのが同じだね。
4 練習問題を解く。	計算の仕方が分かったよ。どの方法が簡単でいつでも使える方法かな。		三つの方法で練習問題を解いて、どれがよいか確かめよう。	
振 り 返 り	5 本時の学習を振り返る。 【わたしの割り算の世界】 【自分を信じる力】	友達の説明をよく聞いて、自分でも考えたから、三つとも考えを理解することができたよ。私は、割り算の性質を使う方法が簡単だと思ったから、それを使ってもっと難しい問題に挑戦したいな。	数直線を使うと計算の意味がよく分かったよ。どの考え方も同じで、習ったことを使って計算することが大切だと思ったよ。次は、かけ算と同じように、割る数が1より小さい割り算や、小数÷小数の問題に挑戦したいな。	

評 価	(整数) ÷ (帯小数) の計算の仕方について、友達と交流することで、数直線を用いて数量関係を表したり、割り算の性質を用いたりして考える計算の仕方を理解し、除数が小数の場合でも、整数に帰着して考えることの大切さに気付いている。 【方法：様相・記述】
--------	--

働きかけの詳細資料

～見通し～ 情【やってみタイム】(2～13時間目)

単元を通して、すべての子供が学習課題の意義を見いだせるように、これまで学級で解決してきた問いを示した補助黒板や前時の板書を映した大型テレビに注目させ、本時に取り組みたいこととその理由を話し合う場を設定する。



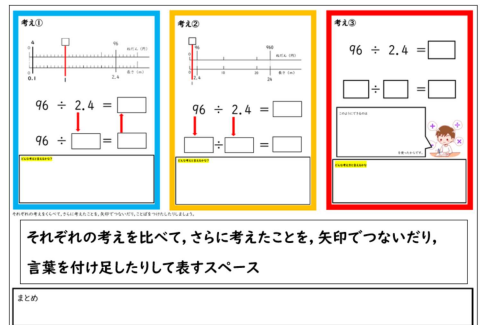
【前時の板書】

本時は、前時の学習内容を振り返る際に、子供の発言に応じて板書の写真を拡大して示すことで、三つの考えから自分が取り組みたいものを選択し、個々に計算の仕方を考えていたことを確認する。そして、本時に何をしたいかを問うことで、学習課題を設定する。さらに、「どうして、友達の計算の仕方を知りたいと思ったのかな」と問い、ペアで個々の理由を表出し合う場を設けた後、全体で確認することで、自分と違う考えを選んだ友達の計算方法について理解することのよさを感じられるようにする。

価値付け 「〇〇さんの意見をいいなと思う人はいるかな」などと全体に問いかけ、同じように本時の課題解決のよさを感じている姿を見取り、「このような『やってみタイム』の気持ちが込められているんだね。みんなで解決したいよい目当てになったね」などと、その思いに共感する。

～行動～ 粘【いろいろ考えタイム】(2～4, 8時間目)

子供たちは、小数のかけ算の学習でも、友達に自分の考えを理解してもらえるように責任をもって説明し合うことで、多様な考えから計算方法について詳しく理解できた経験をしている。その経験を生かし、本時は、①他の考えの友達に自分の考えを説明する自信を高めるために、同じ考えを選んだ友達と前時のワークシートを用いて、どのような計算方法かを話し合っ



【本時のワークシート】

て確認する場、②他の考えの友達の説明を聞いて、右のようなワークシートに、式が表す意味を数直線図に矢印で書き込んだり、考えられる式を書いたりして多様な考えを理解する場を設ける。また、交流する際には、話形を示し、疑問に思ったことを進んで質問することを促す。そうすることで、自分の考えの説明をより分かりやすくしたり、他の考えについて詳しく理解しようとしたりと、粘り強く考えられるようにする。全体交流では、グループで話し合っ

て考えたことを基に、それぞれの考えの共通点を話し合うことで、整数に帰着して考えるよさに気付けるようにする。考えの過程を伝えることが苦手なA児には、①の交流の場において、考えを整理できるように意図を尋ねて言葉を補ったり、説明への自信を高められるように自分の言葉で伝えようとしている様相を称賛したりすることで、自分で説明することができるようにする。

価値付け 自分の考えとは違う友達の計算の仕方を理解しようと、ワークシートに分かったことや気付いたことを書いたり、疑問を友達に問いかけたりしている姿を称賛する。また、そうしたことが多様な考えを理解することにつながったことを称賛する。

～振り返り～ 信【わたしの割り算の世界】(1～13時間目)

全体で学習のまとめをつくった後、本時の課題解決を経て、新しく分かったことやできるようになったことと、その理由を1枚のワークシートにまとめ、蓄積することで自分の成長や学習過程を具体的に捉えられるようにする。



【わたしのわり算の世界】

学習の成果を文章で記述することが苦手なA児には、板書やワークシートを見ながら、分かったことやできるようになったことを問いかけ、口頭で表出させた後、記述を促す。

価値付け 数名の子供に発言を促し、同じような内容で学習の成果を実感できているかを問い、「今日の学習を振り返って、自分の成長を感じられているね」などと称賛する。